

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育⑫ ～全道研から県中同研へ～

みんなで語り合う人権学習はすべてを変える

1991年6月25日(火)板野郡同和教育研究会の公開授業から1991年10月31日(木)全日本中学校道德教育研究会(以下・全道研)の特別公開授業へと語り合いの同和問題学習を積み上げてきた生徒たちは、仲間への信頼と尊敬を強くし、想像を超えるほど成長していきました。

それは、この特別公開授業で訴えた同和問題学習の重要性をいきいきと語り合う1991年11月19日(火)徳島県中学校同和教育研究会(以下・県中同研)の公開授業での語り合いの同和問題学習へと深まっています。

この県中同研公開授業の冒頭で紹介した全道研当日に綴ってきた生活ノートを紹介します。

S・Eの生活ノート「今日の私たちは準優勝どころか、優勝、ついでに全員にMVPを贈りたい」

1991年10月31日木曜日、今日のこの日は忘れることができないだろう。「こんな授業、二度とできないかもしれない」と思っていた板野郡同和教育研究会の授業さえ影が薄くなってしまふ程の授業だった。昨日このノートには「緊張もプレッシャーもない」と書いたけれど、さすがに体育館に入った時は少しビビって、それでも隣のY・O君としゃべったり、緊張のせいか顔がこわばっていたK・H君をひやかしたりしていたら、いつもみたいな気分になってきて安心した。

おまけに授業が始まった時にはやる気がすこい出てきて、何かわくわくしてきたくらいだった。

そんな中で始まった授業、私は「今日こそ発言のスタートを切ってやる」と意気込んで挙手しようとしたら、ほとんどの子が挙手していて驚いた。

いつもは発表なんてあまりしない子も挙げていて、「負けられない」という気持ちになった。でも、実のところなんか意見がありふれている感じで「こんなんで大丈夫かな」と思っていた。それがこんな授業になった。そのことがうれしい。

この授業に火をつけたのは、やっぱり同和問題学習のことを出したS・Nさんだと思う。そして、今日は学年全体で同和問題を学習してきたからこそ成り立ったんだと思う。

これで私なりに同和教育はすべての教育の根幹にあり、教育そのものであるということが証明できた。

10分ぐらいのオーバーで授業が終わった。もっとも時間がかかった。最後の礼が終わった時に周りから拍手が聞こえて、一回やんでいたのに退場の時また拍手してくれた。

その拍手は私たちが体育館を出るまで続いた。とてもすっきりした清々しい気分になって、ついつい顔がほころんでしまった。『ナイン』について言いたいことは全部言ったという感じだった。

板野郡同和教育研究会の授業の終わったとき女子の何人かは涙を流していた。今日の授業には涙はなかった。みんなにこにこしていた。H・Iさんが言っていたように本当に輝いていた。

今日の私たちは準優勝どころか、優勝、ついでに全員にMVPを贈りたい。それも互いの絆を確かめながらの優勝、要するに最高の試合ができたということで胸がいっぱいだ。

この授業を3年B組のメンバーで受けられたことをとてもうれしく思うし誇りに思う。みんなに心からお礼が言いたい。

徳島県中学校同和教育研究会は「3年B組の授業」を期待してたくさんの人がかかるだろうけど、今日のような授業がしたい。そして、一生3年B組の絆を大切にしていきたい。先生もお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおランチ共同代表 森口 健司

